

# Cure & Care



## 特集：摂食・嚥下に対する当院の取り組み

### 地域に根ざした医療と介護を誠の心で実践します

#### 目次 - CONTENTS -

理事長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・P2

脳卒中リハビリテーション部長挨拶・・・P3

#### 特集

摂食・嚥下に対する当院の取り組み・・・P4～6

平成 25 年度病棟実績・・・・・・・・・・・・P7

新任医師紹介・・・・・・・・・・・・・・P7

法人施設のご紹介・・・・・・・・・・・・P8



# 理事長あいさつ



## 各務原リハビリテーション病院

理事長 **いその みちお**  
**磯野 倫夫**

近年、日本各地で介護、医療、住まい、生活支援、予防が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が進められています。地域の定義はいろいろですが、厚生労働省の資料ではおむね人口1万人程度の中学校区とされています。日本には東京のような世界的な大都会から岐阜のような地方都市、また、数百メートルの範囲に人口が1万人ある地域や、数十キロの範囲の人口が1万に満たない地域など、その様子は千差万別です。しかしいずれの地域においても、今後、後期高齢者の方々が増加します。特に都市部やその周辺の地方都市での増加が著しいと予測されています。この様な状況のなか、その地域に適した地域包括ケアシステムを構築する必要に迫られています。実際、各務原市においても戦前からの人口密集地域、農家が多い地域、昭和40年代に山を造成し開発された団地、平成になって開発された平野の団地など、さまざまな地域があります。

医療法人社団誠道会 各務原リハビリテーション病院のある緑陽中学校区は、昭和40年代に山を造成し開発された団地と農家が多い地域といえます。前地域の特長は、団塊の世代、後期高齢者の増加、高齢者世帯、高齢者独居世帯、在宅介護に適さない家などで表せます。後地域の特長は、2世代3世代同居世帯、後期高齢者が農業に従事、在宅医療を受け入れやすい家などで表せます。この様に、中学校区においてさえ地域の中心を何処に定めるかによって、その地域の特性は大きく変わってしまいます。

その様な地域の定義の中で、地域包括ケアシステムを構築するにおいて最も重要と思われることは、対象とする地域のニーズ（顕在的欲求）を正確に把握しウォンツ（潜在的欲求）に結びつけることです。対象とする地域の人々のニーズにあった地域ケアシステムを構築し、対処とする地域の人々のウォンツに結びつけることによって、地域で終末期を迎える幸せを実感していただけると考えます。

当法人の理念は「地域に根ざした医療と介護を誠の心で実践します」です。地域に根ざすとは、地域で信頼されることと考えます。日々、地域の方々に誠実に接することでそのニーズを肌で感じ、地域の方々のウォンツを形成し、それに答えていくことが当法人の出来る地域包括ケアです。

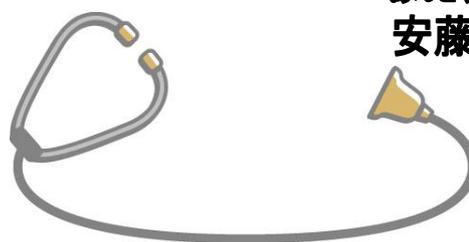
# 脳卒中リハビリテーション部長あいさつ



## 各務原リハビリテーション病院

### 脳卒中リハビリテーション部長

あんどう ひろみち  
安藤 弘道



皆さまこんにちは。この4月より各務原リハビリテーション病院で勤務している安藤弘道と申します。

私は平成3年に岐阜大学医学部を卒業後、同大学脳神経外科に入局し、岐阜大学附属病院、県立岐阜病院（現岐阜県総合医療センター）、岐阜市民病院、総合大雄会病院などの急性期病院に勤務してまいりました。外科手術を最高峰とした急性期医療は確かにその充実感、達成感は素晴らしいものがありました。しかしながら、脳卒中などにより後遺症を残した多くの患者さんの慢性期医療に関してはほとんど関与できないのが急性期医療に携わる医師の現状でした。

高齢化社会が本格化し、脳卒中の激増に伴い各種リハビリテーションを中心とした慢性期医療が発展、充実していくのを実感し、この慢性期医療に携わりたいとの思いが少しずつ強くなると同時に私の地元である各務原市での地域医療に貢献したいとの思いも重なり、このたび縁あって各務原リハビリテーション病院に勤務し、脳卒中リハビリテーションを中心に診療させていただいております。

当院ではスタッフはもちろん、施設も非常に充実しており、必ずや患者様の期待に応えるリハビリテーションを提供できると信じております。

患者様皆さまの未来を少しでも明るく変えることが我々スタッフの一番の幸せです。そのために皆様と一緒に考え、実行し、ともに歩んでいきたいと思っています。どうぞ、よろしく願いいたします。

## 特集

## 摂食・嚥下に対する当院嚥下チームの取り組み ～嚥下の諸問題の解決を目指して～



### 各務原リハビリテーション病院 副院長 和座雅浩

食べ物を嚥下(飲み込む)することが困難になることを「嚥下障害」と言います。私が当医療圏の診療に携わるようになり3年余りが経ちましたが「食事中にむせる、上手く飲み込めない、飲み込んでも肺に入ってしまう、食べる」と肺炎を起こす」といった嚥下に関する問題に多々遭遇しています。嚥下障害を来す原疾患の約3/4が脳卒中や神経変性疾患などの脳神経疾患が占めるとされ、多くの方が嚥下障害に続発する誤嚥性肺炎(誤嚥＝食べ物が誤って肺に入り込む)によって体調を崩され、脳疾患そのものではなく嚥下の問題で命を落とされているのが現実であります。私自身の専門である神経内科として、岐阜医療圏の脳神経疾患診療の充実と発展に貢献させて頂くためには、嚥下の諸問題の解決が避けて通れないと考えるようになりました。

まず私が医師として、嚥下診療において何より留意しておりますのは、病態の把握と原疾患の診断を怠らない事です。加齢による嚥下障害と診断されていた症例の中にも、治療可能な病態が併存している事があり、その病態の是正・治療により劇的に嚥下機能が改善する症例をしばしば経験しています。また根本的な治療を見出せないような重度の嚥下障害例でも、薬物治療、リハビリテーション治療、外科的治療を適切に選択または組み合わせる事により、経口摂取を続けることが可能になった症例を当院の入院患者様や、他の医療機関様から報告例を通して経験出来るようになってきました。私が医師になったばかりの15年前と比べて、嚥下分野においても臨床医レベルで医学・医療の進歩を実感出来る時代になってきたと言えます。

嚥下診療は私達医師にとって難しい臨床症状の一つとされています。今でも「食べれない、飲み込めない」は、全て不治の症状だと捉える医師がいるのも現実です。その理由としては、①嚥下障害を来す疾患は実に多種多様である、②医学部に嚥下医学という講義はない、③経口摂取可能か否かの明確な基準がない、という点が上げられます。私は特に③は臨床上極めて問題であると考え、「どのような患者様が今後も安全に経口摂取を続けられることが出来るか？逆に経口摂取を続けることがかえって患者様の負担不利益になってしまわないか？」などの嚥下予後を予測するよう心がけております。重度の嚥下障害の患者さまに、お口から「食べる」に固執しすぎると不幸な転帰となってしまった苦い経験を、医師なら誰しも持っています。そのため当院では、臨床的に嚥下障害が少しでも疑われる患者様に対しては、嚥下造影検査(VF)および嚥下内視鏡検査(VE)と呼ばれる専門的な嚥下機能検査を積極的に施行し、嚥下障害の病態把握に務めています(図1)。VFとVEは「普段は見ることができない口や喉を食べ物がどのように通っているのか？どの食べ物や飲み物だと喉にたまってしまうのか？」を直に観察出来る為、例えば、一見問題なくお食事を取られているのに誤嚥しているという目に見



図1. 嚥下機能検査

えない怖いムセ(不顕性誤嚥)の検出が可能です。さらに「どうすれば安全な方法でお食事を取って頂けるか？」という治療的な情報が得られる点でも大変有用な検査です。

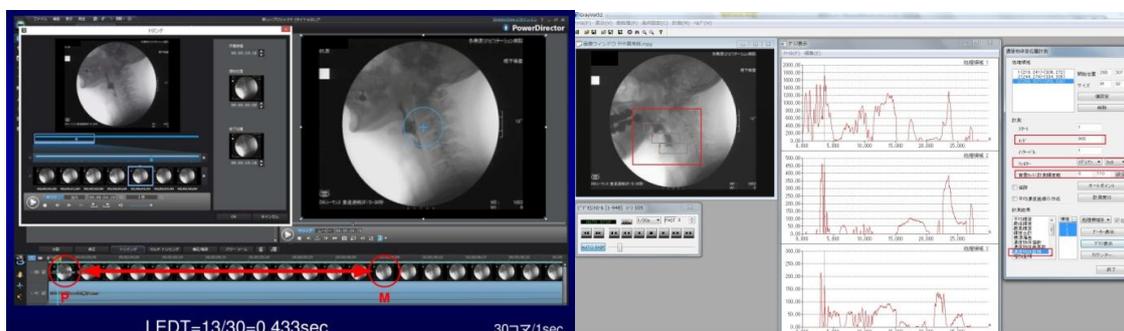


図 2. VF 定量解析

さらに私達は嚥下機能評価の指標として、九州大学耳鼻咽喉科グループの先生方が確立されたVF定量解析である喉頭挙上遅延時間及び咽頭クリアランス測定の臨床応用を試みています(図2)。

嚥下機能の客観的な評価は医学的に難しいとされていますが、喉頭挙上遅延時間と咽頭クリアランス測定は、それぞれ飲み込みに関する感覚系・運動系機能の定量化を可能としており、とくに脳神経疾患例の嚥下予後に有用な指標になり得ると考えています。

当院では2011年12月に前身の新鷲沼ケアクリニックから病院へと発展しましたが、病院オープン後は、嚥下機能検査件数は右肩上がりが増えておりまして、一般病院での嚥下診療のニーズの高さを感じております。H25年度の一年間の延べ検査数はVFが83件、VEが86件となりました(図3)。今後も当院ではVFおよびVE検査を活用し、患者様の嚥下問題の解決に生かしていきたいと考えております。

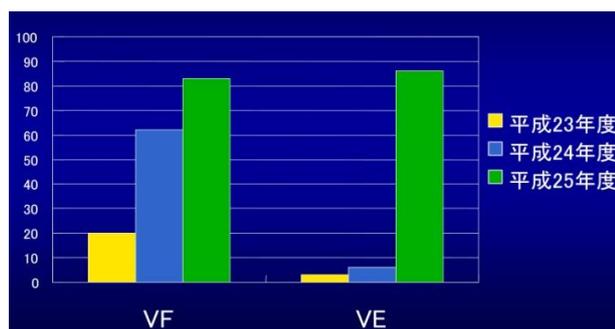


図 3.当院におけるVFとVE 試行件数

また当院では、浜松市リハビリテーション病院の重松孝先生よりご指導頂きました経頭蓋直流電流刺激による嚥下治療法や兵庫医科大学生理学講座(生体機能部門)の越久仁敬先生がご発案されました嚥下補助装置(特願 2012-197483)を当院の嚥下治療に導入しています(図4)。それぞれ微弱な電気信号を体外から流すことにより嚥下中枢を構成する神経細胞群を刺激する事が可能であり、人体でも嚥下機能を改善させうる事が医学的に明らかにされています。これらは先進的なニューロリハビリテーション治療法であり、現時点では保険未記載の診療行為のため、研究段階の治療法ではありますが、患者様のお体への負担がなく、かつリハビリテーションを行いながら治療を実施できる点では大きな利点です。全ての嚥下障害例に適応となるわけではありませんが、これからの治療に医学的適応があり、ご同意が得られた患者様においては、今後も症例数をどんどん増やしていきたいと考えております。



図 4. 嚥下ニューロリハビリテーション治療

「食べられるようになって本当に良かった」と、患者様から感謝して頂いた時の私達ども医療人としての喜びは、何にも替え難いものがございます。また嚥下障害が重度であり3食の経口摂取は例え無理であっても、少しでもお口から食べられるようになられたのをきっかけに体調がめきめき良くなられた患者様より、私達は「お口から食べる」事の大切さを教えて頂いております。近年、他職種がそれぞれの専門性を生かし、患者様を中心としたチーム医療の重要性が切に叫ばれていますが、特に嚥下障害の患者様は多面的な問題を抱えられている事が多く、その解決には医師のみならず専門職それぞれの視点からの「気づき」が必要不可欠です。幸いにも当院には、嚥下診療に熱心に取り組める言語療法士、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、放射線技師などの専門職が多数おりまして、スタッフが一丸となり嚥下障害という困難な問題に立ち向かえる体制が出来ております(図5)



図 5. 嚥下チームメンバー

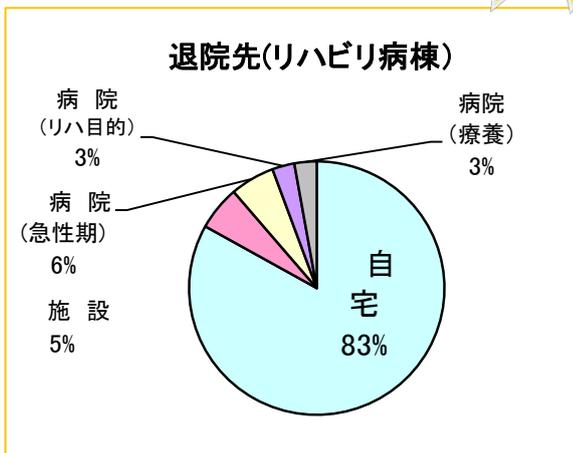
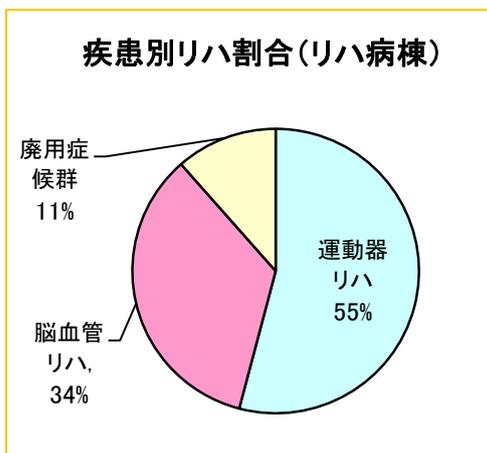
今後日本は世界でも類をみない未曾有の高齢化社会に突入し、認知症や脳卒中などの脳神経疾患を患われる患者様がさらに増加していく事は確実であり、医療・介護において嚥下障害はますます避けては通れない問題となります。昨年の日本嚥下医学会総会にて、浜松市リハビリテーション病院の岡田圭史先生は、嚥下リハビリテーション治療を試行された123名の自験例についての解析結果をご発表されましたが、脳卒中患者様がご自宅に帰られ、元の生活を取り戻されるための最大の障害因子は、嚥下障害と入院中の誤嚥性肺炎併発の有無であったと結論づけられています。すなわちそれは「安全に口から食べる」という生命の最も基本的な営みを、医療においても守ることがやはり重要であり、地域に根ざしたリハビリテーション病院として「地域の皆様の住み慣れた場での健やかな生活を支える」という私どもの責務を果たす為には、医療人として強い志を持って嚥下の諸問題の解決に立ち向かうべきである事を再認識しました。

今後も周辺医療機関様の御協力と御指導を賜りながら、各務原リハビリテーション病院の嚥下診療を嚥下チームスタッフと共に一層充実させていく所存でおりますので、引き続きの御支援の程よろしくお願い申し上げます。

# 平成25年度リハビリ病棟実績

平成 25 年度のリハビリ病棟における実績をご紹介します。

- ▶ 地域連携パス件数:31 件(大腿骨頸部骨折パス 48%、脳卒中パス 52%)
- ▶ 男女比:男性 50% 女性 50%



## 新任医師紹介

新任医師 2 名が着任されましたので紹介させていただきます。



**消化器科部長  
中塩 達明**

**【専門】**  
消化器外科専門医

**【紹介】**  
秋田大学卒  
愛知県がんセンター外科麻酔科  
名古屋大学大学院医学研究科卒 医学博士  
東海中央病院外科  
愛北病院外科  
土岐総合病院外科部長

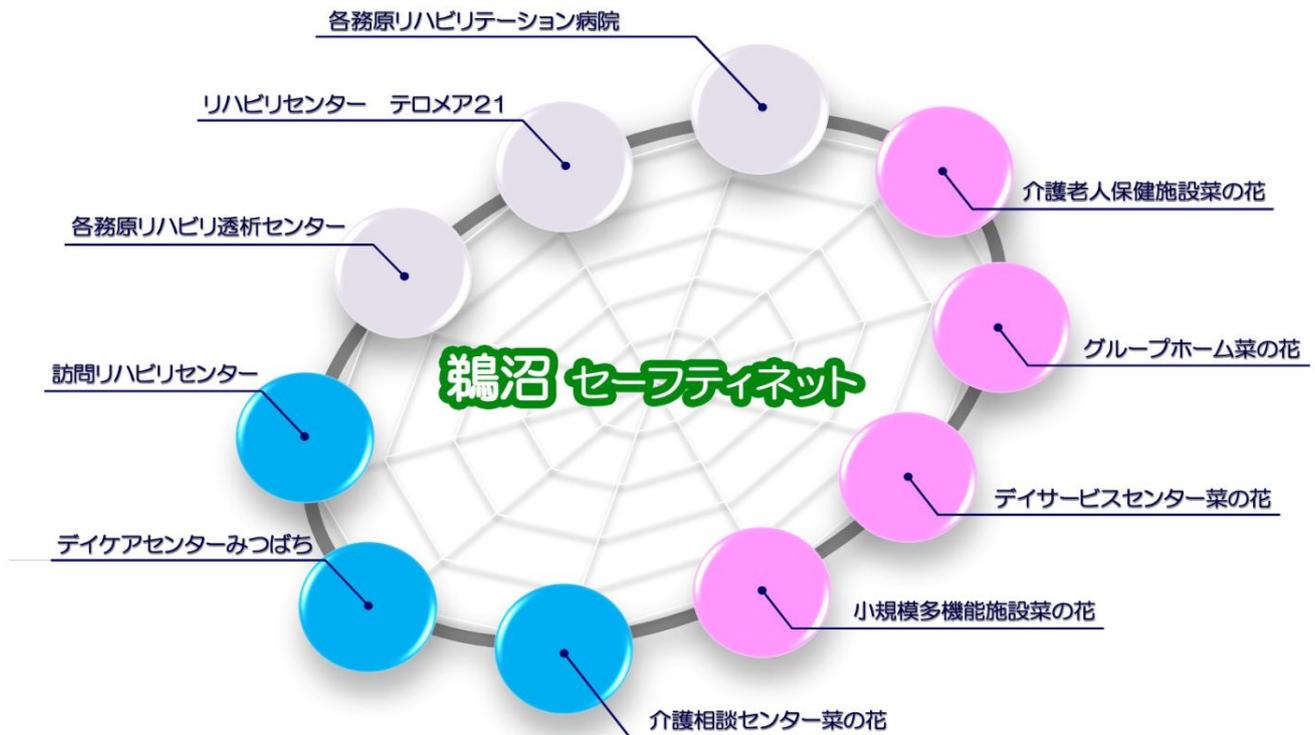


**脳卒中リハビリテーション部長  
安藤 弘道**

**【専門】**  
日本脳神経外科学会 専門医・指導医

**【紹介】**  
岐阜大学医学部医学科卒  
岐阜大学大学院医学研究科卒 医学博士  
岐阜県立岐阜病院(脳神経外科)  
米国メリーランド州国立衛生研究所(留学)  
岐阜大学医学部附属病院脳神経外科講師  
岐阜市民病院脳神経外科副部長  
総合大雄会病院脳神経外科診療部長

# 法人施設のご紹介



## 各務原リハビリテーション病院

各務原市鶯沼山崎町 6-8-2  
TEL 058-384-8485 FAX 058-370-1901

### (地域医療介護連携室)

TEL 058-384-8181 FAX 058-384-8403

## 介護老人保健施設 菜の花

各務原市鶯沼山崎町 6-8-2  
TEL 058-384-8399 FAX 058-384-2102

## グループホーム 菜の花

各務原市鶯沼東町 6-8-1  
TEL 058-379-6205 FAX 058-379-6206

## 訪問リハビリテーション

各務原市鶯沼山崎町 6-8-2  
TEL 058-384-8399 FAX 058-384-2102

## デイケアセンター みつばち

各務原市鶯沼山崎町 6-8-2  
TEL 058-384-8399 FAX 058-384-2102

## デイサービスセンター 菜の花

各務原市鶯沼東町 6-10-1  
TEL 058-370-7494 FAX 058-370-6936

## 小規模多機能型居宅介護施設 菜の花

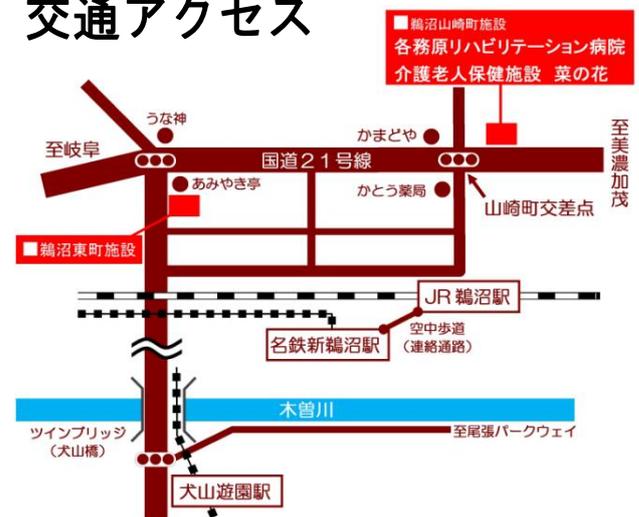
各務原市鶯沼東町 6-10-1  
TEL 058-370-7775 FAX 058-370-6936

## 介護相談センター 菜の花

各務原市鶯沼山崎町 6-8-2  
TEL 058-370-6935 FAX 058-384-2102

ホームページ <http://www.seidoukai.or.jp/>

## 交通アクセス



### — 広報委員 —

磯野理事長 (監修)  
リハビリテーション係：早久仕 (委員長)  
大塚  
地域医療介護連携室：谷口  
放射線係：細江  
経理課：平井

SEARCH

医療法人社団 誠道会

GO